

# 「学びをつなぐ ～幼保・小をつなぐ連携のあり方～」

日時：平成28年8月22日（月） 場所：鳥取県立福祉人材研修センター

【ねらい】 講演及び小学校教諭の保育園における長期社会体験研修の実践発表を通して、幼児教育と小学校教育の円滑な接続への理解を深め、保幼小の学びをつなぐ連携の推進を図る。



## 【研修の様子】

- 1 実践発表 「保育から小学校教育への円滑な接続をめざして」  
 (発表者) 鳥取市立若葉台小学校 教諭 泉 直美 氏  
 鳥取福祉会 わかば台保育園 副園長 森岡 優子 氏

泉教諭 保育園と小学校の共通点と相違点に注目した取組。

泉教諭 スタートカリキュラム 幼児期の学びを生かした「ともだちタイム」の設定。

### 28年度の取組

アプローチカリキュラム見直し

### 28年度の取組

### 森岡副園長

就学前に大切にしたいことを明確にした上でのアプローチカリキュラム編成・見直し。

保育と小学校生活とのつながり～子どもから～

	朝の会	給食
保育園	「一日の見通しを持つ」	給食当番 盛り付け、配膳
小学校		

物理的環境	人的環境	社会的環境
教室・トイレ等身近な施設 遊具(鉄棒・卓立) 廊下 保健室 図書室 上級生の教室・特別教室 校庭(遊具、緑育小園) 体育館	1. 児童教諭(主担任) 2. 学級助手(主担任) 3. 養護教諭(主担任) 4. 保健室長(主担任) 5. 図書室長(主担任) 6. 上級生・学校生活指導員(主担任) 7. 地域の先生	1. 児童教諭(主担任) 2. 学級助手(主担任) 3. 養護教諭(主担任) 4. 保健室長(主担任) 5. 図書室長(主担任) 6. 上級生・学校生活指導員(主担任) 7. 地域の先生

スタートカリキュラムとアプローチカリキュラムのつながり

28年度の取組  
アプローチカリキュラム見直し

28年度の取組  
山山保育での体験活動  
・観察・発見・不思議  
・五感を使った活動  
・身体を動かして遊ぶ

ともだちタイム

### 森岡副園長

保小で共有した課題をもとにした今年度の実践。

## 2 講義 「学びをつなぐ～幼保・小をつなぐ連携のあり方～」大垣女子短期大学教授 西川正晃 氏

### ①学びをつなぐとは

幼児期における「学び」とは、心が動くときめきから始まる活動・経験であり、結果ではなく遊び込む(くり返す)活動・経験である。幼児期は、「心が動く」遊びを「くり返す」というプロセスを踏みしめることで、知識や技能、コミュニケーション能力、道徳性など様々な要素を獲得し、蓄積していく。これを受けて、小学校では、幼児期に獲得した要素を系統的に鍛え、高めていく。幼児期に育てた主体的に学ぶ姿勢は「アクティブ・ラーニング」へ、くり返す学び方は「探究的な学習」へとつながっていく。

### ②保幼と小学校をつなぐ連携の考え方

- **小学校教育** 遊びの中にみられる学びの本質を知る。

幼児期に芽ばえる「学び」の本質を共有し、  
学びの連続性を意識したカリキュラムの編成と実践・検証・改善  
お互いが学びの連続性を踏まえて、子どもの「今」を的確にとらえた教育を。



主体的(結果にとらわれない)・自発的(自分たちで展開する)・探究的(もっとしたいと意欲や探究心が湧き上がってくる)遊びを展開していますか。

- **幼児教育** 小学校以降に展開される学びに責任を保つ。

※交流を目的としない。交流はめざす子どもに育てるための手段であり、子どもの生活の**必要感や必然性からはじまる交流**を。

### 【参加者の感想】

- ◇ 交流をすることが大切なのではなく、学びの芽生えをつないでいくことが大切である。連携の本当の目的を忘れてはいないか、もう一度、園内で話し合いたいです。そして、「心が動く保育」を目指したいです。
- ◇ 自発的、探究的、主体的な子どもに育てて小学校に入学させているか、考えさせられました。日々、しっかり実践していくことが連携の土台だということ、連携する相手に求めるのではなく各々の立場で責任を果たしていくことが大切だと感じました。
- ◇ 幼児教育には遊びの中に学びがある、小学校教育の土台を育てていることが分かりました。小学校では、それを生かす教育をする必要があると感じました。
- ◇ 遊びの中で学んだ経験や知恵をもって入学していると思いつつも、「させていること」が多いと感じました。待ち、見守るといった構えをもってかかわっていかうと思います。

「心が動く保育」に取り組むことが、学びをつなぐ土台となります。小学校では、幼児教育の成果を踏まえた学習を展開することが学校生活への適応につながります。

